

令和3年度大阪府立八尾支援学校 第3回学校運営協議会報告

□日時 令和4年3月10日(木) (表決書ご提出期限)

□場所 書面開催

□出席者 ◆委員6名、校長、准校長、事務局10名 計18名

□次第と運営協議会委員からのご提言内容等(要約)

○【報告】令和3年度 学校教育自己診断について

・生徒へのアンケートについて、『先生は困っているとき助けてくれる』という項目が上昇している一方で、『いじめなどで先生は話をきいてくれるか、進路のことで先生は教えてくれるか』という項目が下がっていることが気になった。『助けてくれる』ということと『聞いてくれる、教えてくれる』の違いがあるのかどうか、悩みや不安などの心理的な面への受け止めが課題となっているのかもしれない。

・生徒への「いじめでこまっていることがあれば、先生は話を聞いてくれますか。」という質問がある。これに関して、「いじめを受けたことがあるか、もしあればその時、どのように先生が対応してくれたか」が大事である。いじめがないに越したことはないが、「いじめを受けたことがある、いじめたことがある、いじめを知っている」といった生徒は、どのくらいいるのだろうか。

・生徒への「卒業後の進路のことでわからないことがあれば、先生は教えてくれますか。」という質問がある。これに関して、わからないことがわからないため「わからない」「無回答」が多いのではないかと。「わからないことを先生に聞けますか」「卒業後の進路の事はわかりますか」「卒業後の進路の事を先生は教えてくれますか」など簡単な表現にしてはどうか。(複数の同意見あり)

←ご回答：回答しやすいアンケートになるように、引き続き項目や文言の見直しを行っていく。

・保護者は、「学校での子どもの様子や教員との関わりがどの程度なのか。」「友だち同士との関係性はどうか。」など知ることが困難である。上手に説明できる子どもは多くないのではと思う。

・組織マネジメントについては、どの組織でも難しさがあると思われる。(複数の同意見あり)

・全体での行事は難しいが、学部や学年別ではなく、クラス単位での参観にすれば密を避けられるのではないかと。工夫できればよい。

・提出率については高い数値が出ている。保護者の提出率をさらに上げるために、少なくとも教職員は毎年100%であるように願う。

・生徒の回答では肯定的な回答率が上昇した項目が多く、教員の日頃の指導成果であると考え。「学校に行くのが楽しい」「授業がわかりにくい」については、肯定率は比較的高いものの、今後は生徒全員がそう思えることを目指して頂きたい。保護者の回答についても、肯定的回答が90%を超えるものが

多いが、体罰やいじめに関する項目になかなか上昇が見られないことが今後の課題のひとつである。

- ・教員については、昨年度よりも肯定率の低下している項目が多分野で散見しているため、結果を来年度の学校運営や教育活動に有効に活かしていただきたい。
- ・教育活動や保護者との連携において、保護者、教職員ともに肯定的評価が多くなっていることは、学校の姿勢として大事なことであると感じる。学校という場所で当然なされるべきことだが、その部分できちんと肯定的に評価してもらえるということは、皆さんがきちんと学校の姿勢をみているから（伝わっているから）であると思われる。

○【報告】令和3年度 学校経営計画の評価

① ＊学校経営計画（全校及び小・中）について

- ・コロナ禍で地域との交流などはできなかったものの、キャリア教育では、八尾商店の全校的实施が可能になったことや、ICT活用の充実が図れたこと、個別の教育支援計画などの改善など、高い評価につながっている。
- ・自己評価で×のついた項目については、来年度以降も引き続き検証し取り組んでいくことが必要である。数値だけでは判断できないため、課題を検証し、現場の教員と進めていくことが必要である。
- ・子ども達の為、支援教育の専門性や指導技術の向上を高めて頂き、ありがたい。知的障がい教育の専門性に関わる事を保護者は切に望んでいる。教員の専門性の向上には、研修会や経験値の高い教員との情報共有、OJTなど行い、力を入れて頂きたい。
- ・八尾商店の取り組みに期待している。中止にせず、どのような形であっても工夫して実施してほしい。
- ・教員の働き方改革を進め、児童生徒と共に活力のある学校づくりをお願いする。
- ・防災についての取り組みには感謝申し上げます。
- ・「1 支援教育の専門性および指導技術向上」については、新学習指導要領に基づく教育課程への移行が図られるとともに、支援教育部による自立活動や指導法に関する配信が行われるなどといった目標達成が認められる。
- ・「3安全安心な学校づくり」でも、ほとんどの目標において一定の進展が認められるが、教職員の勤務実態の改善については、今後の重点課題として積極的に取り組んで頂きたい。コロナ禍での経験や振り返りがその改善のヒントや契機となってくれるとよい。
- ・「2キャリア教育等」についてはコロナ禍のもと達成が難しいものもあったようだが、夏季休業中の教員の施設見学等の取り組みは、キャリア教育の進展に向けて今後も継続的に進めて頂きたい。

・教育課程の「検討委員会」を継続的に開催されたことはよいことである。単発の会議ではなく、継続的に実施することで、より深く掘り下げることができ、また周囲の視点もそこに向かうように思う。

② *学校経営計画（高）について

・コロナ禍においても、一貫したキャリア教育、及び就労支援の充実を図ったことは、生徒や保護者にとっても心強いことだった。進路先や就職先でも安心して健やかに生活できるよう、行政も含め関係機関が連携して定着の支援ができるように努めたい。

・企業就労への取り組みについて、企業実習をはじめ、どのような取り組みがされているのか、教えてほしい。就業・生活支援センターが、説明会や卒業後の引継ぎだけでなく、在学中から連携できることがあるのではないかと。

←ご回答：企業就労への取り組みは、以下の通りである。

- ・高等部では、卒業後もしくは卒業後数年で企業就労や職業訓練校、就労移行施設への進路を希望している生徒を対象としたフロンティアコースがある。フロンティアコース生になると、1年時には府庁実習やC-STEPの模擬職場体験実習などに参加し、2年の後期からは企業体験実習に参加する。3年時には、本人の希望職種などをしっかりとヒアリングしながら、前、後期の企業実習を通じて、マッチングを行う。就労先については、本人の希望職種や通勤時間等を考慮し、進路指導主事が様々な企業に行き、それぞれの生徒に合った企業を探している。フロンティアコース生以外の生徒でも、企業就労への希望があれば企業実習を行い、これまでも実際に企業就労した生徒もいる。企業就労をする生徒は、ハローワークでの求職登録や障害者就労・生活支援センターでの登録を行い、就労後も学校と関係機関が連携してアフターケアを行うなど就労定着にむけて取り組んでいる。
- ・職業／生活実践の授業で、軽作業や清掃、ビジネスマナーなど様々な取り組みを通して、働くための基礎的な力を身につけていく。他にも高等部全学年で、毎年、1週間の校内作業実習に取り組むなど、卒業後、仕事をするという意識を育てている。学校生活全般を通して、働くための体力づくりや挨拶、コミュニケーション面など将来働くことや社会自立することを意識して取り組んでいる。

・ICT活用など教育の質の向上と、教員の質の向上を同時に進めて頂きたい。卒業後の自立と社会参加に向けての取り組みが中心になることは理解できるが、高等部になると、連絡帳や学年だよりでの情報が少なくなっていると感じる。

・就労に向けての教育の中に、就労後の定着を考えての教育指導にも力を向けて頂きたい。

・高等部3年生フロンティアコース生による企業実習の報告会は、良い取り組みである。

・社会的自立に向けての各種訓練の実施が、ありがたい。

・「1支援教育の専門性および指導技術向上」について、どの項目についても具体的目標を達成している。

- ・「2キャリア教育、進路指導等」については、キャリアサポートプログラムや進路指導、地域への関わりなどの多くの項目について具体的目標を達成している。キャリア教育の推進については、保護者の評価が目標値に達成していない。今後はその要因を十分分析するとともに、保護者向けの情報発信が要因であれば、その改善を図って頂きたい。

←ご回答：保護者向け学校教育自己診断の結果における「キャリア教育を行っている」の肯定率 90%以上を維持するという評価指標に対して未達成であるが、R2年度の保護者の評価は87%、R3年度は89%と上昇傾向にある。理由としては、PTA 施設作業所合同説明会や保護者対象施設見学会の実施、進路通信（全校8回発行、小中5回、高4回）や八尾商店通信（4回）を通してキャリア教育の取り組みを紹介したこと、八尾商店を通して小中高の連携がスタートしたことが考えられる。来年度は、中学部生徒による生徒向けの販売実践がスタートする予定である。学部間交流では、小中高が連携しての清掃活動や、高等部の生徒が小学部との交流の内容を考え実践するなどの取り組みも行う予定がある。今後、様々な取り組みについて情報発信し共有していくことで肯定率90%以上を目指していきたい。現在、「キャリアパスポート」として個別の教育支援計画に「将来・進路選択に向けて身につけたい力」という項目を追加し「キャリア教育発達段階表を基にした評価基準」からキャリア教育の目標を保護者と共に設定している。設定時（懇談等）に小中高、将来へとつないでいくキャリアパスポートの視点やキャリア教育発達段階表の説明等を丁寧に行っていくことで保護者の理解を深めていきたい。

- ・「3安心安全な学校づくり等」では、人権ポストへの投書に対する即日の委員会開催と対応が適切に行われていることがとくに評価できると考える。機会があれば、事例などお聞かせ願いたい。

←ご回答：児童・生徒、教職員の人権に関わるものや学校運営全般に関わるものなど、投書内容は多岐にわたる。相談内容に応じて、管理職を含めた関係各部署と情報共有して慎重にかつ迅速に対応した。

- ・教員による業務効率化のアイデアや課題提起は興味深い取り組みである。内容についてお聞かせ願いたい。

←ご回答：業務効率化のアイデアや課題提起について、以下の通りである。

- ・職員室の電話に子機を配置し内線の回し方のマニュアルを作成したことにより、電話近くの教員の負担を軽減することができた。
- ・One note の活用 ・CSP の在り方について
- ・校務処理システムの導入について（教務で検討し今すぐの導入は見送り）

- ・授業力向上 PT について。具体的にどのような活動や実践がなされたのか、教えてほしい。

←ご回答：授業力向上を目標に、以下の取り組みを行った。

- ・授業見学期間を設けたり授業をビデオ化した「授業アーカイブ（令和3年度版）」や教材・教具のアーカイブを作成したりすることで、教員が簡単に様々な学部・教科の授業や教材などに触れ、日々の指導に生かせるよう取り組んだ。「授業アーカイブ」については、今年度18本の動画を作成した。
- ・支援教育図書コーナーに据える図書の購入や支援グッズの貸し出しを行った。教材や指導に関する書籍の購入のほか、教員が手に取りやすいように本棚のリニューアルにも取り組んだ。

- ・校内の教員を対象に、年間通じて支援教育相談会を行い、児童生徒やクラス運営、自立活動・各教科授業などについて相談する場を設けた。
- ・年間を通じて「支援教育部ニュース」を発行し、支援教育部の上記取り組みや授業紹介、教材教具の紹介など教員への情報提供を行った。令和3年度は、号外を含めて20号発行した。

○【検討】 令和4年度 学校経営計画（案）について

①学校長より

*学校経営計画（全校及び小・中）

←全会一致にて承認

- ・安全安心の学校づくりとして、防災訓練については、令和3年度に実施された実績を踏まえ、さらなる充実が計画されていることは、行政の立場からも有難く思う。可能な限り隣接校、行政、地域など協力し合いながら進めていくことが大切である。
- ・小学部から高等部まで一貫性のある教育活動は良いことかと思う。これからも良さをいかした取り組みをしていてもらいたい。
- ・特色ある教育として、自立活動を中心とした指導方法プログラムの提供とあるが、具体的にどのようなものか。
 - ←ご回答：支援教育部リーディングスタッフおよびコーディネーターを中心に、教員研修等を通じて自立活動における指導プログラムの提供と活用に努めた。主なものは以下のとおり。
 - ・「動作法」を含むアプローチ（外部講師）
 - ・「コグトレ～認知機能トレーニングを取り入れた取り組み～」（外部講師・本校教員）
 - ・「ファシリテーションボールメソッド～身体を通じたはたらきかけ～」（外部講師）
 研修を生かして実際の授業で実践したり、教員による自主研修会を行ったりしてプログラムの活用に努めた。
- ・支援力の向上として、指導教諭・首席を核としてOJT活用するとの事だが、通常業務もあり負担がかからない様な配慮はされているか。教える側、教えられる側の負担を少なくしながら知的障がい教育の向上を望む。教職員が元気であれば、子ども達も元気であると確信している。
- ・「1 支援教育の専門性および指導技術向上」におけるスタディーログ作成や、教員のICT活用力向上のための教育アプリ活用に向けた取組み、「2 キャリア教育、進路指導等」では、自立活動を中心とした認知トレーニングやリラクゼーション活動の充実などの取組みが計画されており、その効率的な実践や効果に期待している。
- ・教員の勤務実態の改善は喫緊の重点課題あると考えられるため、ストレスリスク軽減の取組みを含めて、負担が偏ることのない持続可能な学校運営がなされることを願う。
- ・自校の教職員の専門性を高めながら、同時に地域支援も行うという立場は、そこが課題であると感じて

いる。なかなか一朝一夕でできることではないが、頑張っていきたい。

②准校長より

*学校経営計画（高）

←全会一致にて承認

- 1.（4）支援力の向上について、児童生徒の状況や多様化・複雑化する課題に対応するためには、教育活動や指導に向きあう意識、ちょっとした変化に気づく力、複数人の意見を踏まえたチーム力、が重要になると考える。このことは、教育に限らず「人を支援する・育てる」職場には共通して重要なことである。令和4年度の計画では、中核となられる教員や指導的役割の教員を核とした、経験の浅い教員の実践力向上が掲げられているので、チーム力を発揮して課題等に取り組むことにより、個々の教員のモチベーションや意識の変化につながり、実践力が高まっていくことを願う。
- より良い学校にしていくことでは、経営側も現場の教員も同じである。それぞれの立場で意見を出しながら計画を立てていくことが大事かと考える。
- 企業就労者のアフターフォローについて、課題がある時だけでなく定期的な情報共有など、就業・生活支援センターとしても一緒に考えていくことができればよい。
- 現場の教員との方向性を統一し、子ども達の為の「学校経営計画」であることを再認識して頂きたい。難しい面がある事は承知だが、目標達成と共に教員としての主たる役割を忘れずに、子ども達と接していただくようお願いする。
- マチコミメールの加入率が高くなれば、情報が迅速に伝わり学校にも保護者にも大きなメリットがある。ホームページの活用にも言及されているが、ブログや他の項目についても更新し、いろいろな情報を保護者と共有できる場として見易い画面にリニューアルを検討して頂きたい。特にスマホの画面を選択出来るようにして頂きたい。
←ご回答：次年度に向けて、学校ホームページのシステム変更を進めている。新システムになれば、スマートフォン対応のホームページになる。
- 「1 教員の専門性および授業力向上」では、教員の声に耳を傾け、具体的な意見交換の機会を設けることを計画されていることに期待しているとともに、准校長先生による教員への学校経営に係るより丁寧な説明がなされるようお願い申し上げます。
- 「2 キャリア教育推進等」では、キャリアサポートプログラムの実施と効果、および農福連携の拡充などの取組みによる障がい重度である児童生徒のキャリア教育の拡充に期待している。
- 「3 安心安全な学校づくり」では、人権教育のさらなる充実が目指されており、高等部卒業後の社会での生活を見据えた大変重要な取組みだと考える。生徒の皆さんの、自他の人権を尊重し、意思決定や合理的配慮要請に係る意識を高めることに今後も結びつけて頂きたい。
- 日々の実践を重ねながら、常に振り返り、再度計画をたてて実践するというPDCAサイクルがうまく

まわっていくようにすることが学校運営にはとても大事である。細かく目標設定をされている姿に、その姿勢を感じる。

<質疑応答・意見・感想等>

- ・コロナの感染が続き、学校としても大変だと思う。教員の苦勞も多いと思うが、引き続き、生徒がより良い学校生活を送れるようお願いする。
- ・子ども達とともに「こころ」と「からだ」を育む学校になる様、PTAも協力する。

○会長あいさつ

コロナ禍のもと、教職員の皆様には、今年度も日々の教育活動にご尽力頂きましたことに、まず敬意を表したいと思います。

そのような中、特別支援教育の専門性や授業力の向上に加えて、キャリア教育や人権教育の推進、ICT活用のさらなる充実や防災等、学校が直面している課題は山積みです。教職員の皆さんの働き方改革とのバランスを検討しつつ、よりよい学校経営を進めていって頂きたいと思います。委員の皆様にも、できる限りのご協力を今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

コロナ感染対策についてはまだまだ予断が許されない日々が続くことと思いますが、学校運営にかかわるすべての皆さんの安心、安全を心よりお祈り申し上げます。

(原文まま)